

6日 月曜

サムエル I



19:18 ダビデは逃げて、難を逃れ、ラマのサムエルのところに来た。そしてサウルが自分にしたこと一切をサムエルに告げた。彼とサムエルは、ナヨテに行って住んだ。

19:19 するとサウルに「ダビデは、なんとラマのナヨテにいます」という知らせがあった。

19:20 サウルはダビデを捕らえようと、使者たちを遣わした。彼らは、預言者の一団が預言し、サムエルがその監督をする者として立っているのを見た。神の霊がサウルの使者たちに臨み、彼らもまた、預言した。

19:21 このことをサウルに告げる者がいたので、彼はほかの使者たちを遣わしたが、彼らもまた、預言した。サウルはさらに三度目の使者たちを遣わしたが、彼らもまた、預言した。

19:22 サウル自身もラマに来た。彼はセクにある大きな井戸まで来て、「サムエルとダビデはどこにいるか」と尋ねた。すると、「今、ラマのナヨテにいます」という答えが返ってきた。

19:23 サウルはそこへ、ラマのナヨテへ出て行った。彼にも神の霊が臨んだので、彼は預言しながら歩いて、ラマのナヨテまで来た。

19:24 彼もまた衣類を脱ぎ、サムエルの前で預言し、一昼夜、裸のまま倒れていた。このために、「サウルも預言者の一人なのか」と言われるようになった。

サウルが預言するのは非常に違和感があるかもしれませんが、サウルは神の器ではないはずであり、神の霊がみこころに適わないような人に臨むはずはないと思うでしょう。

ただし気をつけなければならないのは、完全にみ

こころに適う人はいないという事です。また人が預言するのは、あくまでも主の聖霊によるのであって、その人の人徳や業績によるのではないということも重要です。

それを覚えていないと、自分が預言などで神に用いられるときに、勘違いしてしまいます。すなわち、自分は優れているから用いられるのだと思ってしまうのです。さらには自分ほどには用いられていない人を、まだまだの信仰・能力と思いつ込んでしまいます。

サウルの一件は、不思議なことではありますが、以上のような、神の絶対主権に私たちを回帰させてくれるものです。用いられるかどうかで人と自分を判断するのではなく、あくまでも主の前にひれ伏すものでありましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

